

渋川市議会 会派 きぼう・政策調査会 視察研修報告

平成27年 4月 20日

政策調査会 代表 中沢 広行

きぼう 代表 望月 昭治

副議長 須田 勝

副議長 須田 勝

1. 視察日程： 平成27年4月15日～17日

2. 視察場所： 中華民国 台湾（彰化県（彰化県政府・社頭郷・員林鎮）・台北市）

3. 視察議員：
副議長 須田 勝
きぼう 望月 昭治・星野 安久
政策調査会 中沢 広行・細谷 浩・山内 崇仁・池田 祐輔

4. 視察概要： 平成26年11月7日に渋川市は彰化県社頭郷と観光分野における友好協力に関する協定を締結し、また本年も同県員林鎮との協定調印を行う為、渋川市長をはじめ関係職員が表敬訪問することとなり、議会側として立ち会うべく同行した。

また、台北市台北花博公園（旧中山足球場）内にて開催された「2015年第1回日本の観光・文化・商品展in台湾」に渋川市も出展を行い、観光PRの内容や方法、他出展ブースとの差異の観察を目的とした視察研修会を実施した。

5. 視察報告：

(1) 彰化県政府 - 表敬訪問（平成27年4月16日）

彰化県は台湾中西部にて台中市と連接する面積約1,074平方キロメートル・人口約130万人の県で、昨年本市と友好協力に関する協定を結んだ社頭郷、また今回協定の調印を行う員林鎮の行政県である。

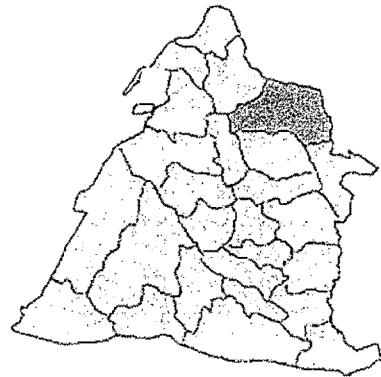
彰化県は西暦1600年代の清王朝時代より開発が行われ、肥沃な土壌、豊富な物産から「台湾の穀倉」と呼ばれている。八卦山脈の山林風景、寺院などの歴史建造物、福建省・広東省二つの省の異なる文化が入り混じる民情風俗の違い、多様な農産物などが主な観光資源である。

彰化県彰化市にある県政府への表敬訪問へ同行し、県長である魏明谷氏をはじめ関係者より盛大な歓迎を受ける。

彰化県位置図（台中市の南側に連接）



彰化縣長から歓迎を受ける渋川市長



彰化縣彰化市 位置図

社頭郷に引き続き員林鎮とも友好協力に関する協定を締結する本市に期待を寄せており、相互発展への協力貢献を確認した。



彰化縣長 魏 明谷 氏(前列右側)と

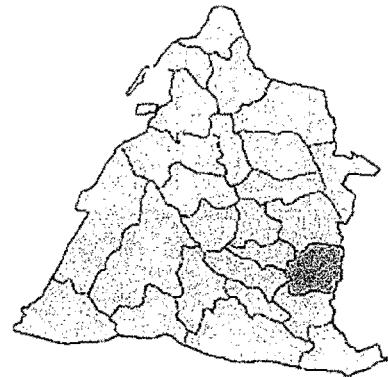
(2) 彰化縣社頭郷 - 表敬訪問 (平成27年4月16日)

平成26年に友好協力に関する協定を締結した社頭郷への表敬訪問へ同行。社頭郷は彰化縣中東部に位置する面積約36平方キロメートル・人口約4万4千人が居住する街であり、グアバ・靴下の生産が盛んである。

郷内の地域産業を担う靴下工場にて関係者からの歓迎を受け、また同工場の技術や生産体制を見学した。



主任秘書の卓智明氏から社頭郷の説明を受ける



彰化縣社頭郷 位置図

生産技術は日本から導入し、この社頭郷での雇用を生み出す大切な産業とのこと。今では多種多様な靴下やストッキング、タオルなど織機技術の品質が高い。本市との深い友好関係を築き継続したい意向である。



靴下生産工場を見学

(3) 彰化縣員林鎮 - 友好協力に関する協定の調印（平成27年4月16日）

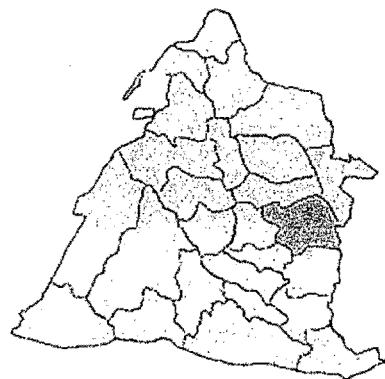
社頭郷の北部に接する員林鎮は面積約40平方キロメートルに人口約12万5千人が住む都市である。文芸への関心が高く、多目的複合ホールである員林鎮演芸ホールは彰化縣最大の文化建築であり、国際文化芸術交流の拠点となっているとのこと。また、古くから開拓や開発が行われていた都市であり歴史的建造物も現存している。

員林鎮公所にて観光分野における友好協力に関する協定の調印式に同席し、無事に協定

が締結されたことを立会い確認した。



互いに協定書に調印し握手を交わす員林鎮長と渋川市長



彰化縣員林鎮 位置図

調印式には員林鎮公所関係者並びに員林鎮民代表會(議員)の方々も多数出席し、それぞれ鎮長と市長より紹介を受け視察議員団とそれぞれ挨拶を交わした。

互いの観光資源活用を図り、相互交流を促進すべく来年度以降において鎮公所職員並びに員林鎮代表會にて渋川市を訪問する計画を現在策定しているとのこと。



員林鎮長 張錦昆氏・員林鎮公所職員並びに員林鎮民代表會の方々と

(4) 2015年第1回日本の観光・文化・商品展in台湾（平成27年4月17日）

台北市台北花博公園(旧中山足球場)にて4月17日～20日の日程で「2015年第1回日本の観光・文化・商品展in台湾」が開催された。日本の観光促進と東日本大震災への台湾の支援に感謝を示す為に開かれたもので、4日間で8万人の動員を見込んだ大きなイベントに本市もブースを出展。



会場付近看板



開場前 入口付近に入場待ちの長蛇の列

出展社は約80団体あり、内自治体の運営は16団体。北は北海道から南は沖縄まで様々な趣向を凝らし、特徴を活かした出展をしている。本市も伊香保温泉を中心とした観光PRを市長自ら多くの来場者へ実施した。



開場前 渋川市ブース



多くの人が混雑する渋川市ブース前

6. 視察感想

平成26年の年間訪日外客(観光客)数は約1,880万人おり、内中華民国 台湾からの観光客数は約267万人と約14%をも占めている。大きな訪日国である中華民国 台湾からの観光客を如何に本市へ誘致し、また再度訪れてもらえるよう、交流促進・誘致PR・環境整備と多方面からの働きかけを積極的に行うことが重要と考える。